

自然保護部会情報提供資料に対する委員意見及び回答一覧

委員	項目	意見	回答
あらい委員	【資料 2-1】 14 ページ ニホンザル管理 事業実施に関し て	令和 6 年度の速報値を見ると、湯河原町は人身被害 1 件、生活被害は県全体 173 件中 63 件と割合が高くなっています。湯河原町で行ったニホンザルの生活被害状況調査でも令和 4 年から 6 年度まで 3 か年の調査で被害件数が毎年増加していると聞いています。追い払いや追い上げを実施しても、一時的なものですぐに市街地へ戻ってくることから、湯河原町の要望をしっかりと聞きながら具体的・抜本的な対策を講じていく必要があると考えます。	湯河原町におけるニホンザル被害については、大変重要な課題と認識しています。県としては、まずは、人身被害を発生させるような加害個体の捕獲を進めて、群れ全体の加害性を下げるよう、町の実施している追い払いなどの被害対策についても支援を継続したいと考えています。
あらい委員	【資料 2-2】 文字の大きさについて	これは事務局への意見ですが、送付された資料の「ニホンザル管理事業実施計画別冊」は文字が小さく読みにくいです。県 HP に掲載されているのを見る事になるため、敢えて紙の資料を送付する必要はないかと思えます。	資料の文字の大きさにつきまして、ご不便をおかけし申し訳ございません。いただいたご意見は今後の審議会運営に活かしてまいります。
高橋委員	【資料 1-2】 18 ページ 生息環境整備	県の水源環境保全取り組みは間もなく 20 年を経過、2027 年以降も継続が伝えられる。水源環境事業と事業面において重複点が多いのでは。更なる連携強化を望みます。	現行計画では、県有林管理部局がわな捕獲を実施する取り組みを開始していますが、次期計画においては更なる多様な主体との連携強化のため、県水源林担当部局や他森林管理者も捕獲の主体となるべく、仕組みづくりを検討しています。

自然保護部会情報提供資料に対する委員意見及び回答一覧

委員	項目	意見	回答
高橋委員	【資料1-2】 21 ページ 市町村が実施した取り組み	防護柵の未設置場所を減らすことが被害軽減の近道では。「地域ぐるみの対策」立ち上げ支援は心強いので、是非とも広げて欲しいです。 捕獲後のシカの埋設地不足やジビエとの繋がりについても勉強不足ゆえにご指導のほどよろしくお願いします。	今後とも関係者への技術支援に努めてまいります。
高橋委員	【資料2-1】 17 ページ 被害防除対策 (1) 集落環境整備	放棄果樹、廃棄果樹等の問題は就農者の高齢化も一因と思われる。手が足りない、お金にならない事に費やす時間は勿体ない。誰かがやってくれたら・・・？ えっと思われるかも知れませんが、例えば地域の学校の部活動や自治会等にお願ひし、出荷出来なかったみかんもぎ体験はどうでしょう。	多様な主体が関係しながら、地域ぐるみの鳥獣被害対策を進めている事例もありますので、ご提案については、今後の取組の参考にさせていただきます。
高橋委員	【資料2-1】 個体群について	昨今マスコミでも取り上げている湯河原町の狂暴サル「TI 群」について 町議会では、かつての小田原同様全頭捕獲を要望中との事。 小田原 S 群は審議会等関係者各位皆様のお力で2020 年末には群れの消滅が伝えられている。さらにもう一つの「H 群」についても「管理困難な群れ」と認定され全頭捕獲が進行中。賛否両論ありますが人々の生活に大過ないうちにと願っています。	湯河原町におけるニホンザル被害については、大変重要な課題と認識しています。県としては、まずは、人身被害を発生させるような加害個体の捕獲を進めて、群れ全体の加害性を下げるよう、町の取組を支援していきたいと考えています。さらに、町で実施している追い払いなどの被害対策についても支援を継続したいと考えています。

自然保護部会情報提供資料に対する委員意見及び回答一覧

委員	項目	意見	回答
<p>畠山委員</p>	<p>【資料1-1】 18・19 ページ 生息密度調査について</p>	<p>ニホンジカ管理事業計画のモニタリング調査の区画法による生息密度調査ですが、かなりの人手と時間を要しているかと思えます。また人手によるので、見落としによる調査精度の低下も課題にあるかと思えます。そこでご提案です。赤外線カメラを搭載したドローン空撮による調査試行をされたらいかがでしょうか。山梨県南アルプス市や兵庫県、長野県などでは調査の実例があるようです。私は業務としてドローン空撮による植生調査支援を実施していますが、先日、神奈川県内のある場所での空撮では高度 100mの飛行でもシカの映像を捉えることができました。そのときの写真を添付いたします。ご検討いただければ幸いです。</p>	<p>ドローンによるシカ個体数調査は、国内で事例がありますが、スギ・ヒノキ人工林など常緑樹林での調査が難しく、性別や成獣と亜成獣の判別等が困難であることやシカとイノシシやカモシカを判別する手法が未確立であること、地表地物との温度差が必要なため夜遅くから日の出前の調査が必要であり、急峻な奥山での実施には安全上の課題があるなどの理由から、現時点でシカ管理計画のモニタリングに全面的に導入することは難しいと考えています。</p> <p>一方、落葉広葉樹林やササ草原を主体とした人工林率の低いエリアなど特定エリアでのシカの生息状況を把握するための調査には、活用の可能性があると考えています。</p> <p>先行事例などの情報も収集しながら、ドローンの特性を生かした活用の可能性について検討していきます。</p>
<p>廣石委員</p>	<p>【資料1-1】 ニホンジカ管理事業について</p>	<p>・農業被害対策の必要性がますます増していると感じます ・市街地での目撃情報が増えていることも気がりです</p> <p>今まで以上に被害地域が広がっているせいか、場所によっては市町村の支援体制が整っておらず、困</p>	<p>支援センターでは平成 29 年度から令和 4 年度まで重点取組地域を設置し、地域ぐるみの鳥獣被害対策を支援するとともに、その地域の取り組みが他地域に波及する仕組みづくりを行ってまいりました。</p> <p>現在でも研修事業を行っているほか、個別の地域相談にも対応しておりますので、引き続き地域ぐるみの取</p>

自然保護部会情報提供資料に対する委員意見及び回答一覧

委員	項目	意見	回答
		<p>っている農家もあると聞きます。支援センター等の積極的な事業と周知に期待します。</p> <p>野生動物全般に関わるところで、干渉帯となるような里山の整備もより積極的に取り組むべきと感じます。地域にとどまらず、県民ぐるみのしくみができればよいのですが・・・</p>	<p>組を支援してまいります。また、鳥獣の潜み場となっている藪の刈り払いなど、里山を含めた集落環境整備も地域ぐるみの取組の一環としておこなっていますので、ご提案も踏まえて、引き続き地域ぐるみの取組を支援していきたいと考えます。</p>